

## 「あなたたちは本当に自由になる」

2002年4月から2011年3月までの9年間、私はルーテル学院大学・神学校で学びました。その間、多くの先生方や仲間と出会いました。中でも心に残るのが、歴史神学の鈴木浩教授です。

ある授業で、鈴木先生はこう話されました。

「自由には二種類があります。一つは“何かからの自由”、もう一つは“何かへの自由”です」

私はこの言葉を聞いてから、「二つの自由」が心から離れなくなりました。もとは私はインド文化が大好きで、愛する妻と友達に囲まれて、カレー屋を楽しく営んでいました。その私が仏教を離れ、キリスト者になったのは、この「二つの自由」のお話が、心を強く動かしたからです。

この二つの自由は共に、「変わることの自由」です。

けれど、イエスさまはその先にあるもう一つの自由——

「みことばにとどまる自由」——を語られます。

イエスさまは信じたばかりのユダヤ人たちにこう言われました。

「真理はあなたたちを自由にする。」

神の言葉にある真理こそが、人を本当の自由へ導くのです。

しかし、当時のユダヤの人たちは納得しませんでした。

「自分たちはすでに自由だ」と思っていたからです。

私たちも同じように、普段は自分が何に縛られているのかを、あまり意識していません。たとえば、病気で数日間寝て過ごしたあと、立ち上がると体が急に重く感じる場合があります。

そのように、私たちはいつも「重力」に影響されているのに、普段はそれを意識しません。

罪も同じです。私たちは自分の犯した罪を、普段まったく意識しません。けれど実際には、知らないうちに罪を犯してしまう。ルターは言いました。

「人間の意志は、いつも罪の奴隷になっている。」

鈴木先生は、ルターの『奴隷意志論』を説明するときに、よくこうたとえられました。

「人の心は、悪魔がハンドルを握っている車のようなものです。まっすぐ進むためには、その運転手を降ろして、イエスさまにハンドルを持ってもらうしかありません。」

ルターが亡くなって、今年で479年になります。彼は62歳のとき、牧師として争いを収める旅の途中で体調を崩し、生まれ故郷のアイスレーベンで亡くなりました。

最後の言葉はラテン語でこう書かれています。

“Wir sind Bettler. Hoc est verum.”「私たちは乞食です。これが真実です。」

徳善義和先生はこの言葉から『神と乞食 — ルター・その生と信仰』を書かれました。

ルターは、神に仕える人として、最後まで精力的に働きました。彼の信仰を支えた中心的な著作のひとつが、1520年に書かれた『キリスト者の自由(De Libertate Christiana)』です。この本の中で、ルターは次の

ように言います。

「キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な主人であり、誰にも仕えない。

しかし同時に、キリスト者はすべてのものに仕える僕(しもべ)であり、誰にでも仕える。」

この言葉には、信仰の本質が表れています。「イエスはキリストである。」という真理が、信じる人に自由を与え、その自由から「隣人への愛と奉仕」が生まれるのです。

ルターは自分の罪を深く見つめました。だからこそ、神さまから与えられる「信仰による義(ただしさ)」を、心から喜ぶことができました。

罪人であることを認めながらも、神の信仰によって罪からの自由を得たルターは、「罪人でありながら、義とされた者として、隣人のために自由に働く」人生を歩みました。当時のキリスト教世界で、ルターはまるで「二刀流のスーパーヒーロー」現代で言えば大谷翔平選手のような、世界中から注目された存在だったと言えます。

1517年、ルターはヴィッテンベルクで「95か条の提題」を発表し、宗教改革が始まります。

1520年には教皇レオ10世により破門され、

1521年、ヴォルムス帝国議会に呼び出され、信仰を撤回するよう命じられました。

しかし、ルターはこう答えたと言われています。

“Hier stehe ich. Ich kann nicht anders.”

「ここに私は立っています。私はこれ以外にできません。」

ルターは信仰を曲げませんでした。そのため、皇帝カール5世によって「帝国アハト刑」に処され、誰も彼を助けてはならず、食事や宿も与えてはいけないという厳しい命令が出されました。

しかし、ザクセン選帝侯フリードリヒが彼をかくまい、ルターはヴァルトブルク城で身を隠しながら、新約聖書をドイツ語に翻訳しました。

つまりルターは、行動の自由を奪われながらも、「神の言葉に従う自由」を得たのです。

それは「人間の権威から自由になり、神の言葉に従う自由を得る」まさに宗教改革の中心となる「キリスト者の自由」の出来事でした。

「あなたたちは本当に自由になる」

イエスさまのこのみことばが、1500年の時を経て、マルティン・ルターによって新しく示されました。それが宗教改革の出来事です。神の御言葉は、パウロからアウグスティヌスを経て、ルターに至って、新しい突破口を開き、世界に向けて展開して行きます。

私たちはさらに、徳善義和教授や、鈴木 浩教授を通じて、あざやかな御言葉の解き明かしを聞きました。真理は日々、私たちを自由にします。私たちに「真の自由」を与えてくださる、恵みの主に心から感謝しましょう。